

Grand Gendai

グランド現代百科事典

Grand Gendai

8

カメラカーキコウク

学研

グランド現代百科事典

Grand Gendai

8

カメラカーキコウ

1983年6月1日 改訂新版第1刷発行

1984年2月1日 改訂新版第2刷発行

全巻セット定価 218,000円

編集・発行人——鈴木泰二

発行所——株式会社学習研究社(学研)

東京都大田区上池台4-40-5 〒145

電話 東京(03)720-1111 (大代表)

振替 東京8-142930

印刷——凸版印刷株式会社

表紙クロス——東洋クロス株式会社

ケース見返し用紙——富士共和製紙株式会社

本文用紙——三菱製紙株式会社

箔押——有限会社斎藤商会

製本——凸版製本株式会社

製函——高田紙器工業所

©GAKKEN 1983

*本書内容の無断複写を禁ず

*この本に関するお問合せ、製本上のミスなどが
ございましたら、下記あてにお願いいたします。

文書は 東京都大田区上池台4-40-5 (〒145)

学研・ユーザーサービス部「グランド現代百科」係

電話は 東京 (03) 720-1111 (大代表)

本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の2万5千分の
1地形図、20万分の1地勢図を使用して調製したものである。

Printed in Japan

161 258

ISBN4-05-150083-7

知らせるデザイン

構成と文／道吉 剛

記号化による視覚的なコミュニケーションは、複雑に発達した現代社会のなかで、私たちにとってきわめて身近なテーマである。記号(サイン)には、大別して信号(自然記号=Signal)と象徴(人為記号=Symbol)の2種がある。公共性をもつ施設案内や交通標識などのサインは、利用者が正確な情報をひと目で得られるような工夫が必要である。それによって利用者の便利をはかり、人ごみの中でも混乱を避け、スムーズに誘導できる。案内表示には文字のほか、単純化されたシンボルが用いられるようになった。複雑なことがらを瞬時に視覚的に伝達する効果をもつからである。シンボル化の利点は、多くの言語が交わされる国際間の交流や移動によって確かめられてきた。情報のシンボル化の方法も多様性と洗練を加えてきたが、一方で共通性を求める統合化が一部の先進国間で進められている。ここでは、空港・鉄道・道路・公園・建物・国際行事などから記号化の例をあげている。

①案内表示(スイス、ジュネーブ) ②空港の案内表示(オランダ、アムステルダム) ③空港の案内表示(フランス、パリ) ④新東京国際空港の北ウィング到着ロビー(成田)

■空港の記号

国際間の交通が盛んになるにつれて、各国の交通機関は旅客の便宜のために、それぞれに案内表示のシンボル化を進めた。その結果、国ごとにあるシンボルの多様さが新しい混乱を生むことになった。この事態を解決しようとして、1976年、アメリカ運輸省とAIGA(アメリカグラフィック・アーツ協会)は、「シンボル・サイン国際統一化」を提言し、共通シンボルを公開した。採用する国は次第に増えている。日本の交通機関では1982(昭和57)年、京王帝都電鉄井の頭線(東京)などが導入し国際的統一に歩調をあわせている。







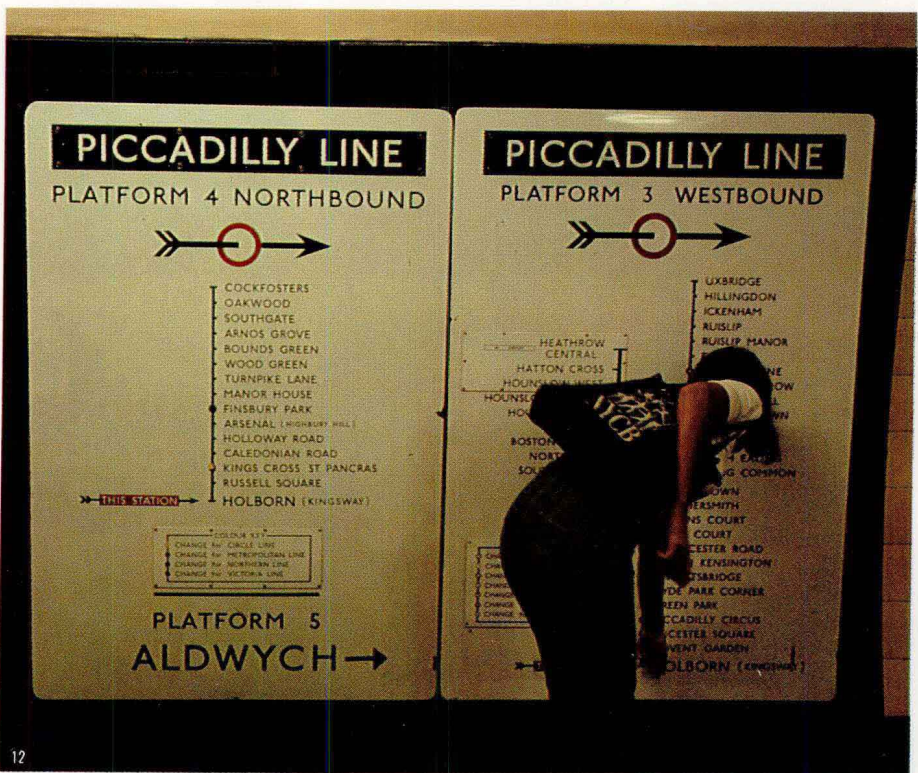
■ 鉄道の記号

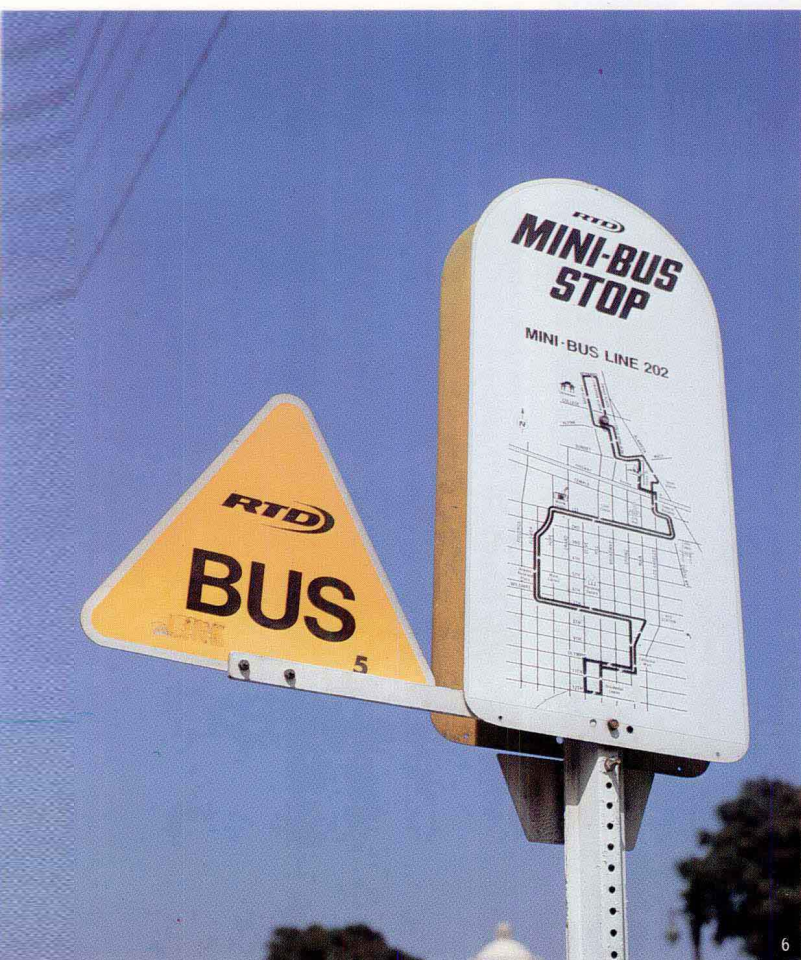
人口の増加と都市への集中は、都市間と都市内の交通量を増大させる。さらに産業の発達と余暇の増大が人々を遠くへ移動させ、都市間交通の発達をとめない、移動に関わる情報も増大させる。

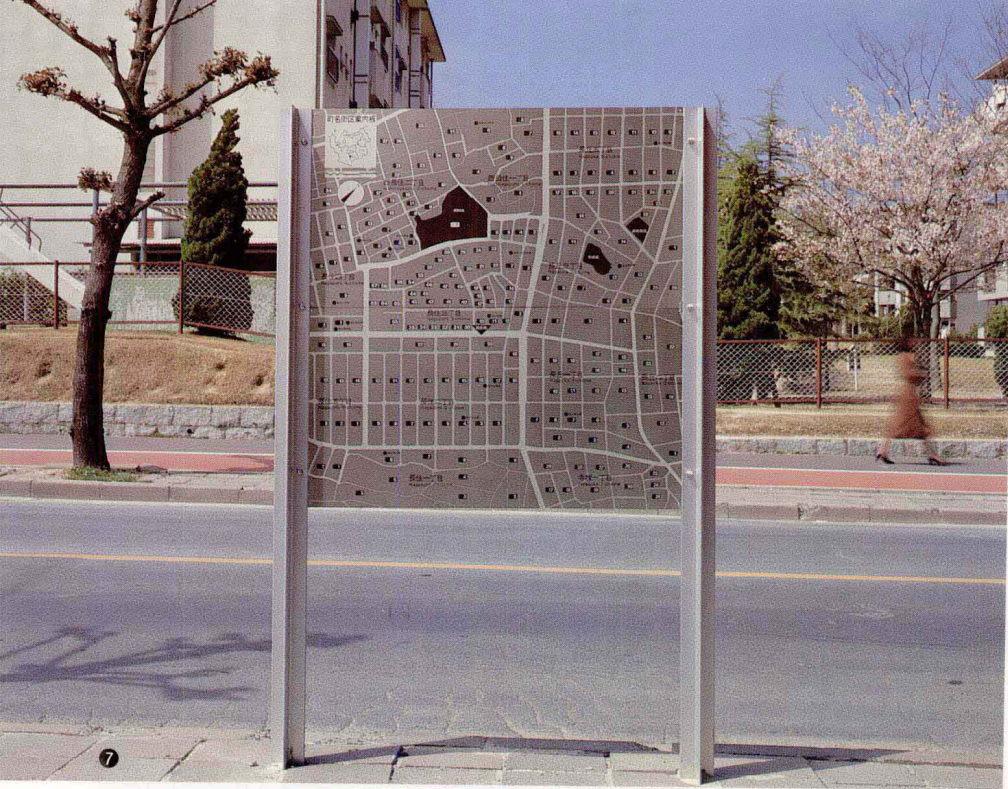
鉄道などの大量輸送機関は、都市間を大きく結ぶ新幹線、路線の綿密な在来線、都市内の地下鉄まで、様々なネットで有機的に結ばれている。それぞれが、個別の系統だったサインのシステムを備えている。

交通機関を利用するとき、乗降の際に最も情報に神経を集中させられる。交錯する情報は必要にして最小限がよい。整理されたサインの体系は、乗降の緊張を和らげる。ここに輸送におけるサインを包含する、設計の重要性が潜在している。

- ①②③④東北新幹線の行先案内板（大宮駅）
 ⑤入国管理事務所の表示と列車ダイヤ（スイス、バーゼル駅）
 ⑥列車案内板（フランス、リヨン駅）
 ⑦列車編成の案内板（イタリア、フィレンツェ中央駅）
 ⑧地下鉄駅構内の路線案内（東京、表参道駅）
 ⑨地下鉄と国鉄・私鉄の路線案内板（東京）
 ⑩地下鉄行先案内板（イタリア、ミラノ）
 ⑪地下鉄行先案内板（スウェーデン、ストックホルム）
 ⑫地下鉄路線図（イギリス、ロンドン）







道路の記号

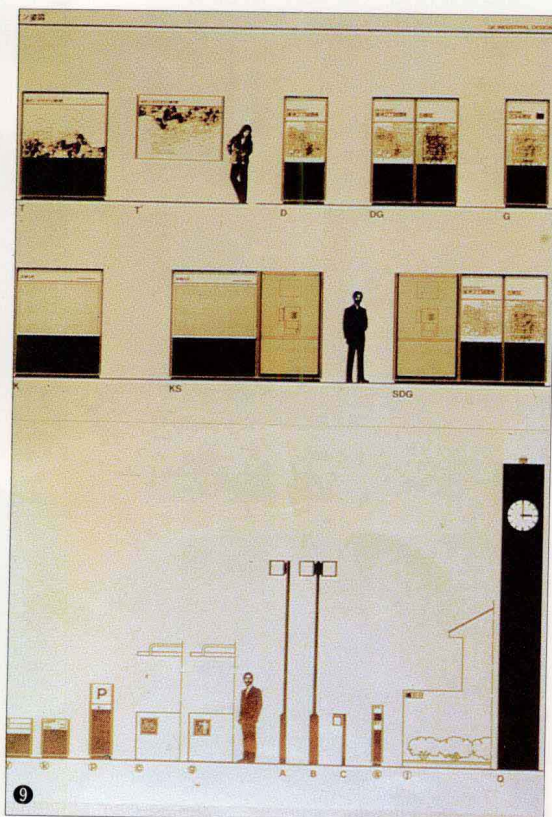
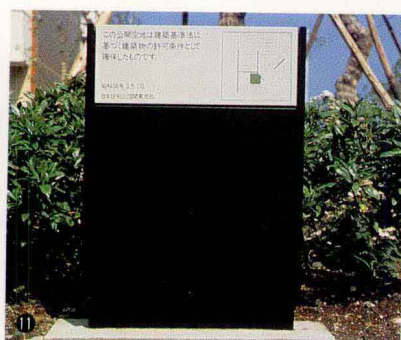
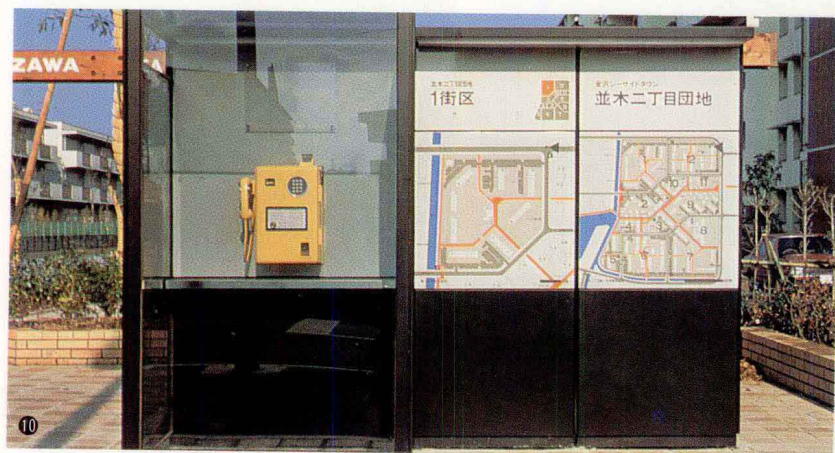
自動車の発達と普及は車道と歩道の区分を進め、車道は高速道路へと立体化した。また歩行者のための道路の見直しはモールなどに現われている。道路の性格や機能にあわせて、標識サインがそれぞれ設置される。

路上には街路の名前や交通標識、周囲の建物の名前、広告などが混在している。目的のものを見つけることを容易にするには、混乱した無秩序な状況でも、整理されたサインによって情報を表示するシステムが役立つ。

ストリートファニチャーは、街路上にある道具で、サイン(案内標識)・街灯・ベンチ・電話ボックス・時計塔・ごみ入れなど、屋外環境作りの装置を呼ぶ。日本でも1970(昭和45)年の万国博覧会あたりから登場した。ばらばらに設計されて不統一になりがちな屋外の装置を調和のとれたデザインにまとめる計画が、いくつかの地方都市で実現しつつある。



①高速道路標識(東京) ②③道路標識(フランス) ④道路標識, 横断歩道(スイス) ⑤道路標識(スウェーデン) ⑥バス停留所の表示と路線案内図(アメリカ, ロサンゼルス) ⑦⑧町名, 街区案内板(福岡市)(九州芸術工科大学 ディレクター/由良滋 デザイン/永崎明子, 河地知木, 工藤卓, 佐藤優) ⑨サインの種類と構成の図 ⑩街区案内板と電話ボックス ⑪空地の説明板 ⑫駐車場案内板 ⑨~⑫金沢シーサイドタウン並木二丁目(横浜市)(デザイン/GK設計)



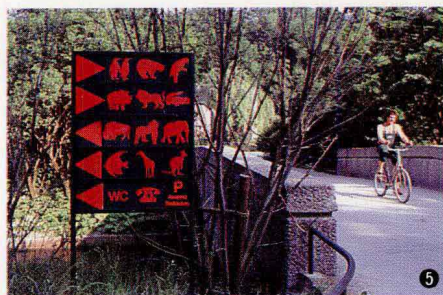
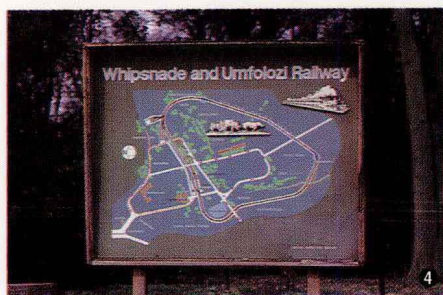
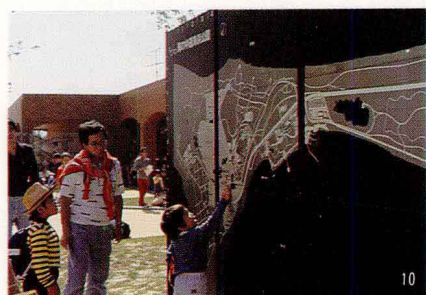
公園・動物園の記号

外部の広い空間において、人々の歩みはいっそう多様で自由な動線をたどる。

動物舎には、飼育されている動物の名前や原産地などの学術的なデータが示される。公園の樹木の名称表示は教育的な意味がある。公園にもストリート・ファニチャーの一貫性ある造形が点在すれば、人々の生活空間がいっそう豊かで美しいものになる。外国の動物園の説明板には、データが詳細な例が多い。

何も置かれていない何も表示されない空間も、過密な現代都市では、見る人に対話や安らぎをもたらしてくれる。

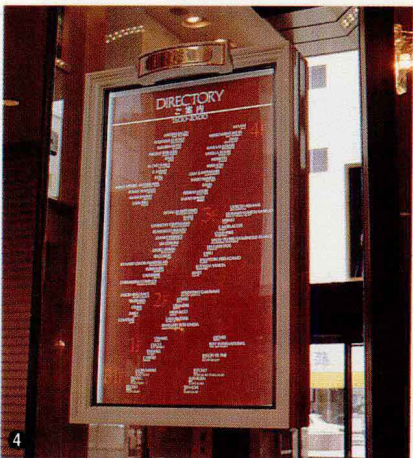
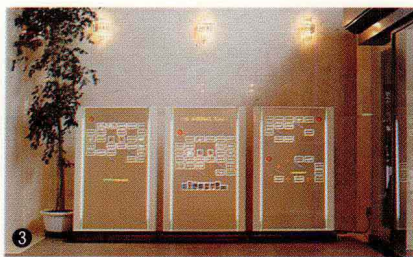
①水鳥園の案内表示(イギリス, スリムブリッジ) ②動物園の案内表示(ドイツ, ベルリン) ④動物園の案内表示(イギリス, ホイップスノード) ⑤動物園の案内表示(ドイツ, ミュンヘン) ⑥⑦⑧⑨国営武蔵丘陵森林公園サイン計画(埼玉県) ⑩⑪⑫⑬海の中道海浜公園サインシステム(福岡市)(デザイン/河地知木, 須永映子, 須永剛司, 永崎明子, 飯岡正麻, 後藤元一, 降旗英史)



■建物内外の表示

建造物の目的、機能はサインに反映する。公共的なサービスは、整理された情報と装飾をおさえた簡潔なサインで表わされる例が多い。商業的な複合されたビルは、その意図のもとに活気をみなぎらせ、個性的に存在を示す。さらに単なる案内表示をこえて、遊びや芸術性をも兼ねそなえている。建造物の機能が複雑であれば移動する利用者の流れに対応して、目当ての場所に誘導できる明確なサインと周知な配置がいる。

①②パルコパート3の屋外サイン(東京、渋谷)
(デザイン/五十嵐威暢, 早瀬和宏, 長尾明哲) ③④帝国ホテルの案内表示(東京) ⑤⑥⑦神戸市中央市民病院の案内表示(デザイン/多田信久, 柳川敏行, 玉木俊和) ⑧避難口誘導灯表示面のデザイン(コーディネーター/坂野長美 デザイン/太田幸夫, 鎌田経世, 小谷松敏文) ⑨慶応義塾幼稚舎図書館サイン(東京) ⑩湯島図書館サイン(東京) ⑪⑫デザイン/太田幸夫 ⑬学校図書館用サイン(デザイン/太田幸夫, 赤坂青美, 大林辰治, 早乙女雅子)



東京 1964年



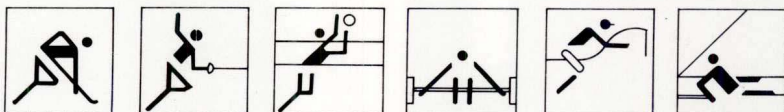
メキシコ
1968年



ミュンヘン
1972年



モントリオール
1976年



モスクワ
1980年



オリンピックの競技ピクトグラム1964—1980年 『目でみることばの世界』(日本規格協会発行)より

国際行事のシンボル

オリンピックや万国博覧会の大規模な国際交流において、シンボルは重要な役割をもっている。それは、国際行事を開く場所や年を観る人に知らせるだけではない。主催国の民族的伝統や文化的香りさえ伝える。さらには行事の中心的な目印となり、祭典を華やかに活気づける。公式的なシンボルの折り目正しい表現に対して、マスコットは楽しさや親しみを加える目的でデザインされている。

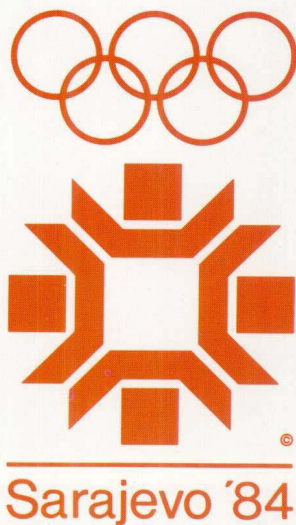
左はオリンピックの種目を示す競技シンボル。1964年の東京オリンピックから勝見勝氏らによって提唱された「絵ことばの国際リレー」20年の経過がみられる。万国博覧会にも各種の施設・サービスを案内するシンボルがある。これらは先駆的なモデルとなり、のちに都市交通や公共施設など人々の生活空間にとけ込んだ好例が多い。

- ①ロサンゼルス・オリンピック1984年のシンボルマークとマスコット(アメリカ)
- ②サラエボ冬季オリンピック1984年のシンボルマークとマスコット(ユーゴスラビア)
- ③つくば科学技術博覧会1985年のシンボルマークとマスコット(茨城県)



(シンボルマークデザイン/田中一光 マスコットデザイン/〈原案〉高垣真紀、〈修正〉和田誠)

③



(マスコットデザイン/ヨージェトロヴェッツ)

②



(シンボルマークデザイン/ロバート・M・ラニアン マスコットデザイン/ウォルト・ディズニー・プロダクションズ)

①

〈協力〉太田幸夫・オリオンプレス・九州芸術工科大学・交通公社フォトライブラリー・坂野長美・ジオグラフィックフォト・帝国ホテル・帝都高速度交通営団・西演劇・日本オリンピック委員会・日本国有鉄道・日本サインデザイン協会・日本体育協会・日本道路公団

◆ 別 刷 目 次	《巻頭口絵》 ● 記号	● ガラス工芸…………… 73
	● 菊	● ガンダーラ美術…………… 263
	《別 刷》 ● 仮面…………… 37	

日本の秋を彩る東西の菊

構成と文／川田穰一

菊は奈良時代の中期以降に中国より渡来したものと推定されている。菊が皇室のご紋章として用いられるようになったのは12世紀、後鳥羽上皇のときからといわれる。しかし、菊が一般庶民に栽培されるようになったのは江戸時代以降であり、当時の菊が海外にも紹介された。

大正年間、アメリカで改良された巨大輪菊や温室栽培用の切花菊が導入され、これを動機として、わが国でも品種改良が盛んに行われるようになり、わが国の風土と、日本人の好みに適合した大輪菊や切花菊が成立した。戦後は再び色彩の豊富なポットマムやスプレイギクが欧米から導入され、わが国の菊も次第にカラフルなものとなってきた。

(協力／京阪ひらかた園芸)

総合花壇 1つの花壇中に、大菊、懸崖、盆栽、福助などを芸術的に陳列し、総合美を觀賞する。





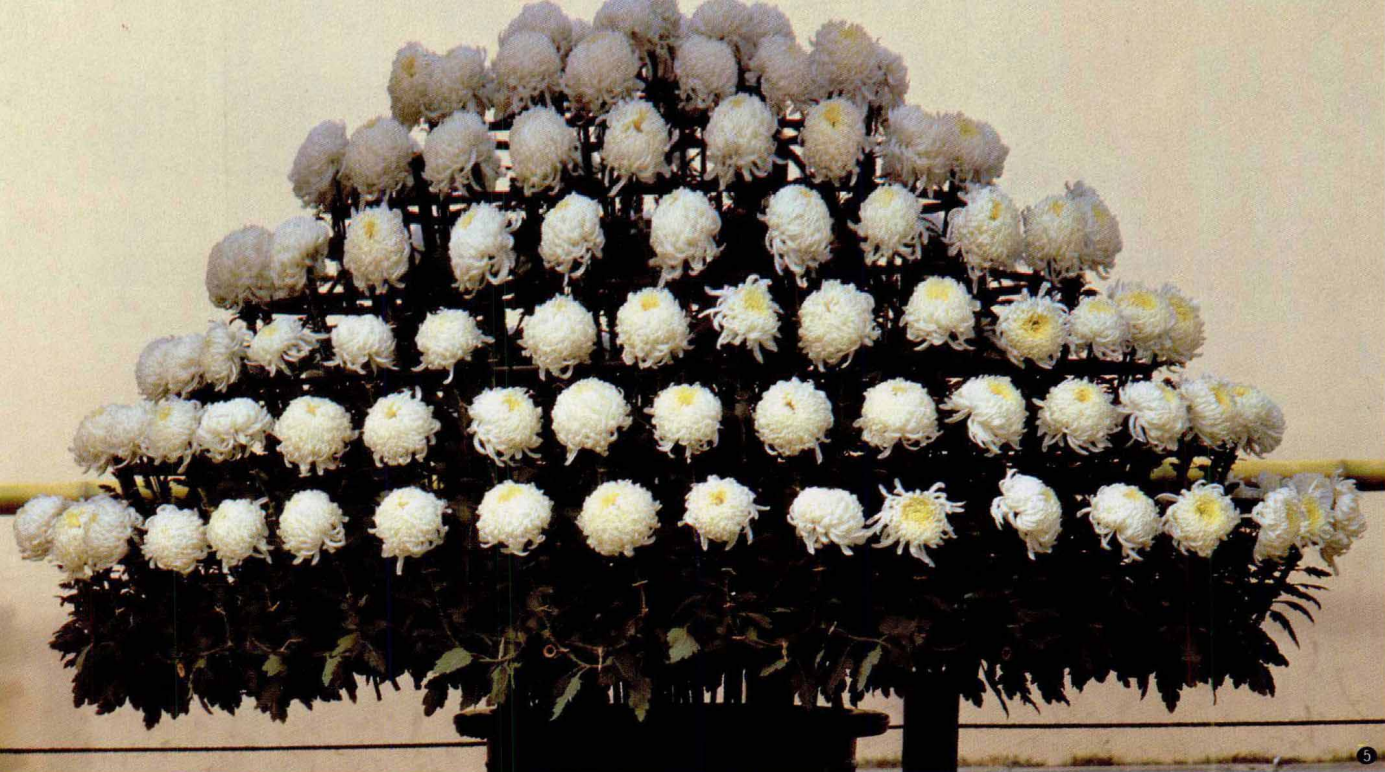
■大菊 厚物, 厚走り, 大掴み

江戸時代に中国より渡来した「黄宝珠」は花径15～18cmで、花形も今日の大菊厚物と同じである。しかし、今日見られるような巨大輪品種が育成されたのは大正以降である。

厚物は花卉が整然と並んで盛り上がり、雄大に咲いているもの、厚走りは厚物の花形で、周囲に力強い走り弁のあるもの、大掴み(奥州菊)は手を握ったような花形で抱え込みの強いものを良花としている。福助作りは遅植えし、Bナインを使用したりして草丈を低く育てたものである。

①大菊手綱植え花壇(写真/富成忠夫) ②厚物(国華栄光) ③厚物(国華青光) ④厚走り(国華艶姫) ⑤千輪仕立て(厚走り, 国華宝塔) ⑥厚走り(泉郷の葵) ⑦厚走り(泉郷五光) ⑧大掴み(富山の雲) ⑨福助作り





■大菊 管物，一文字

管咲きの品種は花弁の太さによって、太管、間管、細管、針管に分類されている。走り弁が斜め下に長く走り、内側の花弁の先は内側に巻き込んで玉を作り、段状に規則正しく重なって抱え、花芯は杯状あるいは茶碗状にまとまっているものを良花としている。

一文字（広熨斗）は皇室のご紋章になった菊である。花弁が広くて弁先がとがらず、舟のような形で、弁と弁の間にすき間のない16弁前後の一重咲きが理想的な花とされている。

①太管（八紘晴姿） ②太管（大芳白浪） ③間管（雪景色） ④間管（洛西の輝） ⑤間管（草庵歌枕） ⑥管物と一文字の手綱植え花壇（写真／富成忠夫） ⑦細管（岸の笛吹川） ⑧針管（新花） ⑨針管（国華美曲） ⑩一文字花壇（上：光泉御殿，下：岸の清涼殿）

